

海底火山の溶岩

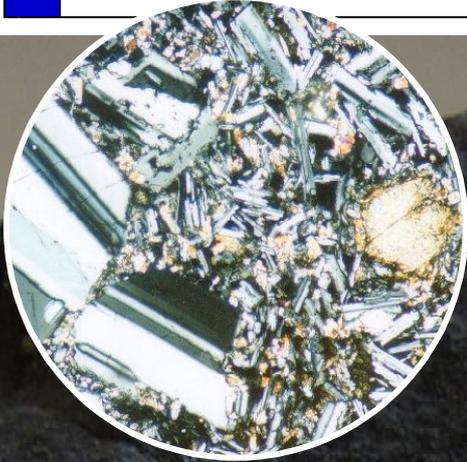
岩石名 玄武岩（げんぶがん）

時代 新生代新第三紀中新世

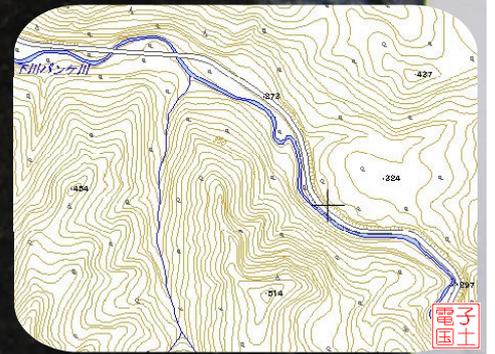
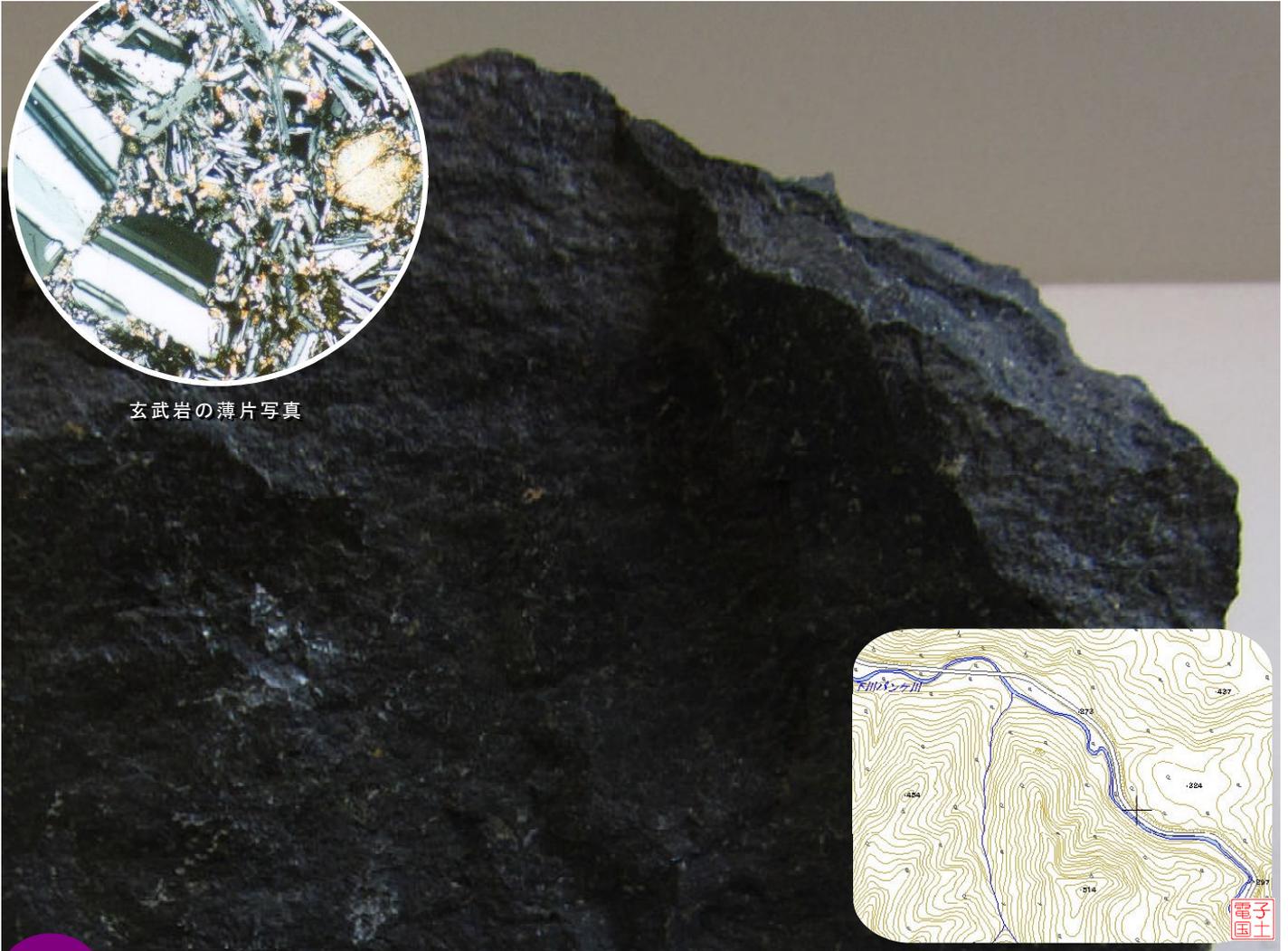
地質区分 下川層群

産出地 下川町パンケ

Basalt



玄武岩の薄片写真



解説

新生代の海底火山



下川町の玄武岩の露頭

新生代新第三紀中新世の、下川層群の玄武岩です。玄武岩は、比較的石英成分の少ない溶岩が冷え固まった火山岩です。下川層群は美深層と同じ時代の地層で、はじめの頃は海成層、後に

陸成層となります。中新世の玄武岩はこのあたりでは珍しく、点々としか見つかりません。新生代の古日本海がつけられたときの海底火山の噴火によるものらしく、水中の火山噴火を示す「ハイアロクラスタイト」も観察されます。下川町パンケの玄武岩はK-Ar法（カリウム-アルゴン法）によって形成年代が測定されており、1500万年～1200万年前のものです。土別でも同じ時代の海の地層が発見されています。

～ Coffee break ～

「玄武岩」名前は、兵庫県城崎温泉の近くにある玄武洞にちなんで、小藤文次郎が明治17年（1884年）に命名したものです。玄武洞は約165万年前に噴火した溶岩流で、六角形の柱状節理が見事な玄武岩の岩山にある洞窟です。ちなみに「玄武」とは、中国の神話で方位を司る神（四神）のうち北方に相当する蛇と亀が合体した神体で、「黒色」という意味もあります。

また、英名の「Basalt」の語源は、ギリシャ語の"basanos"（試金石の意味）に関係があるという説や、この石が豊富に産出されたヨルダン東部の地名 Bashan に由来する「Bashanの石」の意であるという説があります。



兵庫県玄武洞